

医療機関番号

63

医療機関名：

信州大学医学部附属病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和5年（2023年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
717	677	0	40	0	0

②病床機能毎の病床数 ※一般・療養病床のみを算定

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
677	509	125	0	0	43

(2) 医師・看護職員の職員数（令和5年（2023年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
形態	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	495	32.3	739	8.8	1	0	3	26.8

(3) 診療科目（令和5年（2023年）7月1日時点）

緩和ケア内科,腫瘍内科,内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科,腎臓内科,脳神経内科,糖尿病・内分泌内科,血液内科,感染症内科,移植外科,呼吸器外科,心臓血管外科,乳腺・内分泌外科,消化器外科,脳神経外科,整形外科,形成外科,小児・新生児科,小児外科,産婦人科,眼科,頭頸部・耳鼻咽喉科,皮膚科,泌尿器科,精神科,児童精神科,歯科口腔外科,アレルギー内科,リウマチ科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科,病理診断科,救急科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

本院は、高度救命救急センター（信州ドクターヘリ松本）を有し、県内唯一の特定機能病院として長野県下の高度救命救急医療および高度先進医療を担い、幅広く県内全域から入院患者を受け入れている。また、松本医療圏の患者比率が全体の約6割を占めており、松本医療圏の中心的医療機関としての役割も果たしている。厚労省が公開しているDPC調査データでは、平成28年度では「手術あり」件数が5996件（県内の8.3%、松本医療圏の33.0%）と、松本医療圏の手術患者の3分の1を当院が行っていたが、令和2年度時点では、6398件（9.0%、35.5%）とさらにシェアが増加した。MDC2桁分類別に見ると、ダヴィンチ手術等が増加したMDC04呼吸器系疾患、MDC11腎・尿路系疾患や、専門性の高いMDC08皮膚系疾患、MDC10内分泌系疾患等において当院のシェアが増加している。

②課題

病床稼働率が平成27年度の88.2%から平成28年度以降大幅に減少し、令和2年度は80.9%、令和3年度は79.0%と推移している。平均在院日数の短縮による影響や、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響、一般病棟改修の影響も大きいが、令和6年度末の改修完了に向けて検討が必要と考えている。一方で、平成30年度の南病棟（包括先進医療等）の稼働開始に伴い、手術件数（平成28年度：6,497件、令和3年度：7,263件）、新規入院患者（平成28年度：15,502件、令和3年度：16,264件）は継続的に増加しており、令和元年に設置したHCUの増設により、重症患者に対してよりスムーズに対応できるよう計画している。今後は、当院で急性期医療を受けた後の患者受入れ先となる回復期・慢性期病床を有する医療機関との更なる連携が必要と考えている。また、働き手不足が加速する中で、高度医療提供体制を維持するためには、看護師をはじめとする医療従事者の確保は必須であり、重要な課題と考えている。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	◎
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科 等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

県内全域から高難度手術症例や重症患者の受け入れを進め、同時に、高度救命救急センターとしての機能を果たすべく、緊急手術の患者受け入れを積極的に行う。眼科系・耳鼻咽喉系・内分泌系疾患等の専門性の高い患者も引き続き全県から患者を受け入れる。循環器系の重症患者及び術後ICU管理が必要な患者の増加が見込まれており、令和6年度までの病棟改修にあわせ、現在14床のHCUを16床に増床する予定である。診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を果たすため、これらの方向性に変更はない。

(2) 2025年における非稼働病棟への対応

①非稼働病棟の有無（2023.7.1時点）

非稼働病棟の有無
有

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

病棟改修中のため

③非稼働病棟における2025年の方針

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	急性期 ←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病棟を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病棟の方針が未定の場合のみ選択

④ {再稼働} を選択した場合：再稼働後の当該病棟における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

{検討中} を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2),③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

現在病棟改修中であるが、令和6年度末には完了し、令和7年6月からは全病棟が稼働できる見込みとなっている。病棟機能としては従来どおりの高度急性期及び急性期病棟としての役割を担う予定である。

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2023.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B－A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C－A)	2025年との差 (C－B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	509	406→ <u>407</u>	-103→ <u>-102</u>	2025年6月	406→ <u>407</u>	-103→ <u>-102</u>	0	
急性期	125	214	89	2025年6月	257	132	43	2026年4月
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	43	43	0	2025年6月	0	-43	-43	2026年4月
廃止		14→ <u>13</u>	14→ <u>13</u>		14→ <u>13</u>	14→ <u>13</u>	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	677	663→ <u>664</u>	-14→ <u>-13</u>		663→ <u>664</u>	-14→ <u>-13</u>	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年 7 月)

<変更内容> 変更後＝下線

病棟改修完了後、放射線治療用病室を 1 床増床するため、2025年の「高度急性期」病床が406床から407床となり、合計が663床から664床となる。